

拝啓、良寛さま

いま  
現代の私たちの暮らし  
どう思いますか？

開港都市にいがた  
水と土の芸術祭2012 第3回シンポジウム

# 身近な自然と生きる ——良寛的いきかた

自然との付き合い方は千差万様。  
その昔、良寛は、伸びる筈のために床板を剥ぎ、  
茅葺屋根に穴をあけたと言われます。  
人の手入れによる森林の再生を、  
水辺での自然体験活動を、  
鮭と向き合う<sup>かき</sup>鉤流し漁を、  
無農薬での野菜作りを、  
阿賀野川の問題等を通じて  
それぞれのやり方で自然と付き合ってきた実践者たちが、  
楽しく自然と生きることを語り合います。

一部  
講演

14:10-15:10

「こころに木を植える」

C.W.ニコル(作家)

二部  
トーク・  
ディスカッション  
15:20-16:50

「身近な自然と生きる」

パネリスト

コーディネーター

C.W.ニコル

上田 浩子(デザイナー)

加藤 準一(川漁師)

旗野 秀人(冥土のみやげ企画)

佐藤 安男(ワンダーにいがた)

宮尾 浩史(宮尾農園)

高橋 郁丸(民俗学研究者)

司会 東村 里恵子(フリー・アナウンサー)

日時:2012年9月16日(日) 14:00-17:00

会場:新潟市民プラザホール(新潟市中央区西堀通6番町866番地 NEXT21ビル6階)

申込み先

TEL:025-243-4894(新潟市役所コールセンター)

E-mail: info@mizu-tsuchi.jp(水と土の芸術祭実行委員会事務局)

受付期間:8月5日(日)-9月15日(土)※先着順受付

主催・お問い合わせ先:  
水と土の芸術祭実行委員会

TEL:025-226-2624

<http://www.ustream.tv/channel/mizu-tsuchi>

※当日の様子はUstreamで中継します。

参加無料  
定員400名

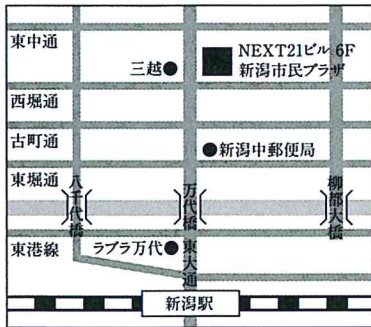


# 身近な自然と生きる ——良寛的いきかた

【日時】  
2012年9月16日(日) 14:00-17:00

【会場】  
新潟市民プラザホール  
新潟市中央区西堀通6番町866番地 NEXT21ビル6階  
TEL: 025-226-5500

参加無料 定員400名



<交通案内>

- JR新潟駅万代口(北口)より/駅前バスターミナルより、市内線信濃町行き又は県庁・新潟駅南口行他で「古町」バス停下車、徒歩1分
  - 高速バスより/「古町」バス停下車、徒歩1分
  - 高速道より/新潟西IC(北陸自動車道)、新潟中央IC(磐越自動車道)下車、R8(新潟バイパス)桜木インターチェンジより車で10分
- \* 駐車場のご用意はございませんので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

【お申し込み】

TEL: 025-243-4894(新潟市役所コールセンター)  
E-mail: info@mizu-tsuchi.jp(水と土の芸術祭事務局)  
受付期間: 8月5日(日)-9月15日(土) ※先着順受付

【お問い合わせ】

TEL: 025-226-2624  
(水と土の芸術祭実行委員会事務局)



Water and Land - Niigata Art Festival  
2012

水と土の芸術祭2012

会期: 2012年7月14日(土)-12月24日(月・祝)  
信濃川河口の港に残る「万代島旧水揚場」をメイン会場に、市内各地に約65作品が展示されます。現代アートのほか、舞踊、ダンス、音楽、演劇、映像等、ジャンルを超えて生みだされるアートやプロジェクトをお楽しみください。連続シンポジウム、トークイベントは引き続き、右記日程で開催します。

登壇者紹介

講演者  
C.W.ニコル C.W. Nicol

1940年イギリス南ウェールズ生まれ。作家、(財)C.W.ニコルアファンの森財団理事長。カナダ水産調査局北極生物研究所の技官・環境局の環境問題緊急対策官やエチオピアのシメン山岳国立公園の公園長など世界各地で環境保護活動を行い、1980年から長野在住。84年から荒れ果てた里山を購入し「アファンの森」と名づけ、森の再生活動を始める。1995年、日本国籍を取得。公式ホームページ: <http://cwnicol.com/>



コーディネーター  
上田 浩子  
Hiroko Ueda

1963年新潟市生まれ。デザイナー。1998年よりフリーランスで活動。広告・書籍等のアートディレクション・デザインを多数手がける。現在合同会社ローカルパワフルエデラ・クリエイティブディレクター。新潟日報朝刊「起承転々々々」連載中。新潟市在住。



パネリスト  
加藤 準一  
Junichi Kato

1950年五泉市生まれ。川漁師。五泉市在住。幼い頃から河川に親しみ、漁の技を身につける。毎年、早出川(五泉市)で鮭の釣流し漁を行う。



パネリスト  
佐藤 安男  
Yasuo Sato

1960年新潟市秋葉区生まれ。20代から飯豊連峰の沢や厳冬期登山を通し、新潟の自然や山を畏れ敬う。1998年から佐潟水鳥・湿地センターに勤務、ラムサール条約など解説活動、白鳥の動向調査も推進。2012年退職。環境省国指定鳥獣保護区管理員。新潟県水鳥湖沼ネットワーク事務局、ワンダーにいがた主宰。



パネリスト  
高橋 郁丸  
Fumimaru Takahashi

新潟市生まれ。新潟県内の祭りや習俗を訪ね歩く。学生時代から良寛に魅かれ、「まんが良寛ものがたり」「まんが貞心尼ものがたり」を執筆。現在「新潟妖怪研究所」を設立し、妖怪研究で新潟の文化を普及しようと試案中。新潟県民俗学会理事。全国良寛会理事。



パネリスト  
旗野 秀人  
Hideto Hatano

1950年新潟県阿賀野市(旧安田町)生まれ。家業の大工を継ぎ、現在、旗野住研専務。新潟水俣病問題で新潟水俣病安田患者の会事務局を務める。また、芝居や映画上映を企画するなど地域文化活動のけん引役として知られる。映画監督の佐藤真さんをくつき落とし、映画「阿賀に生きる」を誕生させた仕掛け人。「冥土のみやげ企画」代表。



パネリスト  
宮尾 浩史  
Hiroshi Miyao

1964年新潟県新潟市北区(旧豊栄市)生まれ。宮尾農園主宰。1994年就農。95年に鶏舎を自力で建設し、自然養鶏を開始。地域の恵みを活かし、自然と調和した有畜複合の自然農業を実践する。祖先や、先輩から受け継がれてきた、知恵・文化・環境といった宝ものを再生し、新たな創造を加え次の世代につなげていきたいという思いから様々な活動を展開。1998年「地域資源と農業を考える会」、2002年「田んぼの学校&緑農村」、2009年「新潟有機稲作研究会」、2012年「新潟美しくらぶ」等を立ち上げる。



連続シンポジウム・トークイベント スケジュール

シンポジウム特別編 10月28日(日) 15:30-17:30 「異界との対話—実践としての写真」  
【会場】旧笹川家住宅(新潟市南区味方216) 【出演】赤坂憲雄、伊藤俊治、石川直樹

第4回シンポジウム 11月18日(日) 14:00-17:00 「共生する世界へ—縄文、みちのくからの問い」  
【会場】新潟市民プラザホール 【出演】小林達雄、赤坂憲雄、大熊孝、篠田昭